

矢作北学区地区防災計画 (愛知県岡崎市)

面積：257.9ha (市全体の0.67%)

人口：12,775人

世帯：5,057世帯

人口に占める65歳以上の割合：15.9%
(市平均：20.7%)



岡崎城

矢作北小学校区は岡崎市西部に位置し、6つの町から成る学区です。校区内東側には一級河川の矢作川が流れており、区全域が沖積層の低地部となっています。そのため市内でも液状化の危険性が極めて高い地区となっています。新しい世帯の流入もあり、岡崎市の平均よりも65歳以上の割合が低くなっています。また若年層の取り込みを熱心に行っており、独自に防災訓練を行う等、住民が積極的に防災活動を行っている

◆矢作北小学校区の概要

愛知県

岡崎市

豊田市

新城市

岡崎市

473

IC

IC

473

IC

473

IC

473

矢作北学区

※矢作北学区を矢作川を挟んで対岸から見た画像

50 m

ライトモード

© 2016 Google

利用規約

プライバシー

2016

2

矢作北学区合同防災訓練

毎年数千人が参加する防災訓練

平成27年10月25日

(平成16年度から地区独自で開催している)



学区自慢の絶品トン汁です



この他にも様々な防災体験ブースがあります



今年度は参加者スタッフ含め3千人
規模で訓練を行いました
参加人数は市内屈指です！

町防災マップ

学区内全町（6町）で市支援の元、住民主導での防災マップを作成しています。



マップには町民有志で話し合った近隣退避場所や、防災上有用な施設、決まり事等を載せています。



『名古屋大学特任教授 阪本真由美先生』の指導の下地区防災計画策定をすすめました。
またワークショップの際には『非営利特定活動法人 岡崎まち育てセンター・りた』に
ファシリテーターとしてご協力いただきました。

平成27年8月20日

第1回 矢作北地区防災計画策定WS

(基調講演)



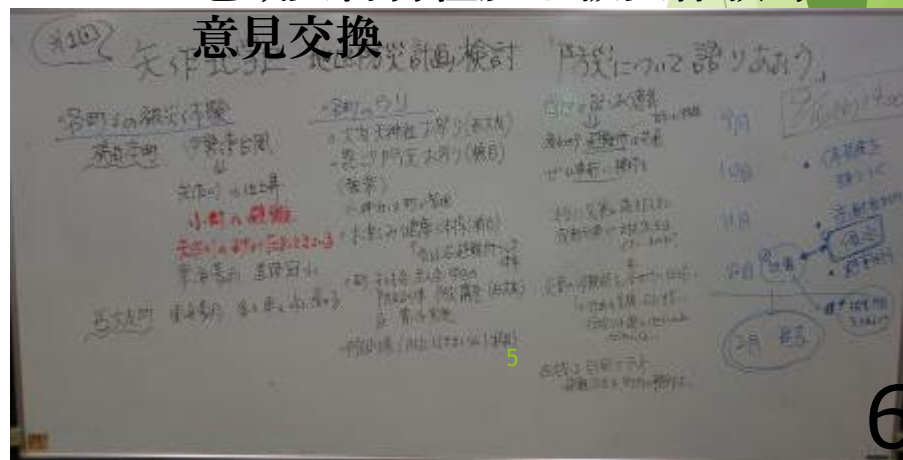
名古屋大学 阪本真由美先生

気づき：地区内の防災上の課題が明らかになりました。地震・水害対策、高齢者等の災害時要支援者の対応、災害経験をいかに若い世代に伝えていくか、避難所の在り方等)

参加者：矢作北地区内 6町
各町内会長、副会長、会計
総勢18名

協力：災害ボランティア団体
6名

内容：計画策定における概要説明
(市防災危機管理課職員)
「地域力を防災に生かす」
(阪本先生による基調講演)
地域災害特性及び被災体験等
意見交換



第2回WS

平成27年9月16日

◆災害時に行う行政の対応と地域の役割について説明

- ・ 9月6日の鬼怒川決壊後のWS
- ・ 情報収集方法
- ・ 避難所開設の概要



◆避難所で困ることを考える

- (1) 食料不足！配る？配らない？
- (2) 停電と断水、トイレ使用可にする？
- (3) あなたの判断は？病人の扱い

ゲーム形式で 災害のジレンマ を体験&検討



◆気づき

災害時の情報の種類やその取得方法の周知の重要性。

万全を期したとしても必ず災害時のジレンマは発生するということ。

第3回WS

平成27年11月10日

避難準備情報が出たら
どうしますか？

- ◆防災くん（防災情報メール）の登録と災害時の情報伝達の説明
（市防災危機管理課）
- ◆水害時における危険や避難のポイントを講話
（阪本先生による）
- ◆個人、町別ワークシートで避難行動を考える（時系列で誰が何をするのか話しワークシートにまとめました）
- ◆気づき
連絡網の整備だけではなく、その実効性も確認が必要であること。
既存の防災組織の見直しが必要であること。



ワークシートを使用しての避難行動の検討

第4回WS

平成27年12月14日

何処に避難しようかな？

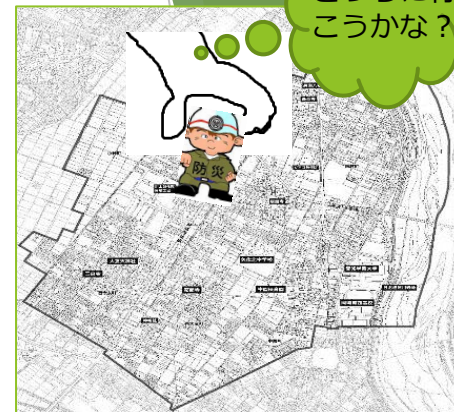


マップシミュレーション（女性編）

その道は本当に安全かな？

私の家からだとどうだろうか？

どちらに行こうかな？



◆気づき

- ・子どもや女性など立場や状況が違うと災害時の行動も大きく違うということ
- ・避難に関する認識の共有がまだまだであることがわかった。

◆地震時の行動シミュレーション

・地図上に駒を置いてどのように避難するかシミュレーションし検証しました。

※小学生編（地元の6年生2人）

※女性編（学区の女性役員）

※自治会長編（避難所から遠い1名）

※学区外からのゲスト編（帰宅困難者を想定）

◆行動シミュレーションから気づいたことのまとめ（グループごと）



気づきのまとめ

矢作北地区全 6 町ヒアリング (今後の方向性について)

◆これまでのWSを踏まえて各町で地区防災計画に関するヒアリングを4回目のWS後、12月に行いました。全ての町でこの地区防災計画をきっかけに、いっそう防災に取り組んでいこうということになりました

◆例えば…

- ・早速、今年の1月に市の防災危機管理課に依頼し防災の講演を町の行事の中に組み込み実施。（町のイベントに組み込んで開催）

- ・町独自のアクションプランを作り実施予定。

- ・継続的な防災組織やリーダーを組織していきたい（任期の延長、人材育成）



第5回WS

平成27年12月14日

◆これまでの振り返り

◆町別に、今後の取組について発表

- ・ 住民意識を覚ますきっかけとしてアンケートの実施
- ・ 連絡網を使った訓練の見直し
- ・ 折り畳み小車の整備
- ・ 古くなった町の防災マップの見直し
- ・ 水害に備え、近隣高層建物の管理者との話し合い
- ・ 町の防災リーダーの育成とそのための体制を整える
- ・ 危機感を持ってもらえるようなはたらきかけ
- ・ 避難経路の見直し
- ・ 現状の防災体制の見直し、検討



◆意見交換会（新年会）



▶ 地区防災計画策定を通じて

- ・防災の取組や考え方を共有することができた
- ・住民の防災意識や疑問点が顕在化した
(想像以上に災害時に考えるべきことす
べきことが多いことに気付いた等)
- ・町単位、学区単位での団結力が深
まった
- ・矢作北地区の防災計画書ができた
- ・地区の課題が浮き彫りになり、今後
の行動方針の目途が立った



矢作北学区地区防災計画書



今後の課題

- ・全学区住民に周知する方法、手段
- ・策定の引継ぎや、防災組織の構築 (防災リーダー等)
- ・学区総合防災訓練の在り方について



H27年度矢作北地区防災計画策定メンバー

